

2012年度 国際化情報連絡会 報告書

～留学生の市民活動を広げるには～



定禅寺ストリートジャズフェスティバルに参加した留学生

はじめに

国際化情報連絡会とは>>>

「国際化情報連絡会」は、外国から来た人も日本で生まれ育った人も、国籍や文化、言葉の違いを超えて、生き生きと暮らすためにはどうしたらよいかということについて、情報・意見交換をする会で、仙台国際交流協会(SIRA)が開催しています。

テーマ設定の理由>>>

今年度はテーマとして、留学生の市民活動を取り上げることにしました。その理由は、仙台には2千人を超える留学生がいますが、多様なバックグラウンドと若いパワーを持った留学生が市民活動に参加することで仙台を活性化することができ、また、留学生自身にとっても、勉強だけでなく地域でさまざまな人と触れ合い活動することで、ますます仙台を好きになって

留学生生活が充実したものになると考えたからです。

留学生が仙台で活躍することは、日本へ留学を考える人にとっても、仙台を選択する魅力のひとつになります。今後も多くの留学生を迎えるため、留学生の活動の場を増やし、広げていく必要があります。

留学生の市民活動について>>>

留学生の市民活動には、留学生が主体となって行うものと、日本人市民主体の既存の市民活動にボランティアや参加者としてかわるものと、2つに分けて考えることができます。

この2つを話題にして、留学生支援や市民活動にかかわっている関係者・団体と情報を共有するとともに、留学生の活動の幅を広げる環境づくりのきっかけとするため、2回の懇話会を開催しました。

報告 1 留学生主体の市民活動

第1回懇話会～留学生主体の市民活動に関する事例紹介と意見交換～

日時：平成24年12月21日（金）15：30～17：00 / 場所：仙台国際センター



- NPO法人在日留学生協会 リ・カ氏
- 東北大学イスラム文化協会（TUMCA）
モフセン・アタイエブ氏、ムハマド・ナシル氏
- 東北大学留学生協会（TUFSA）
チャ・ジス氏、武政明日香氏
- 東北学院大学 国際交流課 水野麻美氏
- 宮城教育大学 高橋亜紀子氏
- SYCふらっと 大村和正氏
- 仙台市青葉区中央市民センター 織田利幸氏
- 仙台市市民協働推進課 植木靖氏
- 仙台市青葉区まちづくり推進課 佐藤有一氏
- 仙台市交流政策課 菅原恭子氏、小島悠可氏
- 仙台国際交流協会企画事業課
佐藤剛、須藤伸子、丹野裕美子

第1回懇話会では、留学生が主体的に行っている市民活動について、実際に活動をしている3つの留学生団体が事例の紹介を行い、意見交換を行いました。また、同じ学生団体として、日本人大学生の市民活動団体「SYCふらっと」で活動している方にも参加いただきました。

支援や交流活動に取り組む留学生団体>>>

各留学生団体からは、留学生同士の支援や交流、そして日本人市民との相互理解の促進や交流を目的に活動しており、それぞれが団体の特性を活かしたイベントを行っている様子が紹介されました。各国からの留学生の集まりなので、言葉がなかなか通じなかったり、常識だと思っていることが通じなかったり、帰国のためメンバーが常に入れ替わったりと、いろいろと大変なことはありますが、それを乗り越えて頑張っている状況を知ることができました。

イベント広報や準備時の交渉が難しい>>>

彼らの活動の一番の成果は、普段なかなか留学生や外国の文化との接点がない日本人市民と交流し、異文化理解を深めていることです。

留学生の中でも大学院生は普段英語を話しているため、日本語が話せない人が多く、イベントのときに言語の壁を感じるとの意見がありました。大きなイベントを行う際にステージや音響機器などの設置を依頼す

る業者さんとのやりとりが大変で時間もかかるという話も出ました。

せっかく良いイベントを企画しても、広報が上手くできずに参加者が集まらないなど、課題もいくつか見えてきました。

情報共有でより良い協働を>>>

意見交換では、国際交流に興味のない人のところへも出て行って情報を渡したり、交流したりした方がよいという意見が出されました。

市民団体の情報交換を目的とした「情報屋台村」というイベントを行っている学生団体からは、自分たちの団体の宣伝ができるほか、他の学生団体やジャンルの違う団体と知り合う機会にもなり、今後のそれぞれの活動のプラスになるので、ぜひ利用してもらいたいという意見が出ました。それに応える形で留学生団体からは、他の団体との接点がほとんどなく、何か新しいものを探していたところだったとの話がありました。

市民センターからは、イベントのチラシを置く場として活用できることや、市民センターまつりへの参加についてお話をいただきました。

また、市役所の市民活動や地域活動を推進する担当者からは、広報や相談、助成制度の利用などについて説明いただきました。

留学生が主体的に活動する上では難しい面もあるこ

とが分かりましたが、今回参加者から出されたアイデアや情報を活用して、新しい連携や広がりの可能性も見えてきました。留学生からも、自分たちの活動を

支援する団体がこんなにあることを知ることができて良かったという感想をいただきました。



東北大学留学生協会（TUFSA）



東北大学や地域において、外国人と日本人市民が交流できる場を提供する団体です。様々な国から来ている留学生と交流したい方のためにいろいろなイベントを行い、交流の場を提供しています。一番大きなイベントとして、東北大学国際祭りを行っています。世界各国の食べ物屋台や民族芸能のパフォーマンス、ファッションショー、ダンスパーティーなど、日本人も外国人も交流しながら楽しめるイベントです。交流イベントだけでなく、日本の暮らしに慣れていない留学生への情報提供サポートも行っています。

東北大学国際祭りでの各団体のブース出展

NPO法人在日留学生協会

日本の生活に不慣れな留学生のために、学内生活から日常生活まで相談や支援を行っている団体です。2012年にNPO法人化しました。メンバーの多くは中国人留学生です。活動として、留学生に対する日常生活・勉強のアドバイス、在留資格に関する相談受付、学術・文化等の国際交流事業などを行っています。昨年4～5月には、SIRAの補助金の交付を受け、「復興のための作文・撮影展示会」を開催しました。震災後の仙台の様子を海外に伝えるため、写真と作文を募集し、国際センターの研修室など市内3か所で展示しました。また、来場者との懇談会も行いました。



復興のための作文・撮影展示会

東北大学イスラム文化協会（TUMCA）

イスラム教の学生の団体で、日本人との文化交流、文化の分かち合いを目的に活動しています。イスラム教についての誤解を取り除き、平和で友好的で建設的な相互理解を促進するために、国際センターの研修室を利用して、アラビア語講座や料理教室、イングリッシュ・フォーラムを開催しています。イスラム教徒の行動や文化の違いについて理解してもらうために、それらについて説明したチラシも作成しています。せんだい地球フェスタや東北大学国際祭りにも参加し、アラビア語習字の紹介も行っています。



地球フェスタでのアラビア語習字紹介

SYCふらっと

『学生と市民団体のマッチング』を手段とし、学生と市民団体がともに活性化することを通して、仙台を『若者が元気で明るい街』にしていくことを目指している団体です。市民団体の合同説明会、団体や仙台を紹介するフリーペーパーの作成、市民団体の情報交換の場となるイベント「情報屋台村」の運営活動などを行っています。



報告 2 日本人主体の市民活動への留学生の参加

第2回懇話会 ～日本人主体の市民活動への留学生の関わりについて話題提供と意見交換～

日時： 平成25年1月31日(木) 15:30～17:00 / 場所：仙台国際センター

話題提供者：定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会 佐々木和夫氏

参加者：

- ・NPO法人在日留学生協会 馬桂群氏
- ・東北大学イスラム文化協会(TUMCA) ムハマド・ナジル氏
- ・東北大学留学生協会(TUFSA) リン・リアン・チュン氏
- ・在日インドネシア留学生協会宮城支部 ディプタ氏
- ・チゴラガン協会 ボルジギン・フムチル氏
- ・仙台地区中国学友会 王維奇氏
- ・東北学院大学 国際交流課 水野麻美氏
- ・NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター 太田貴氏、西川日和氏
- ・仙台市青葉区中央市民センター 織田利幸氏
- ・仙台市市民協働推進課 高橋政輝氏
- ・仙台市青葉区まちづくり推進課 佐藤有一氏
- ・仙台市交流政策課 菅原恭子氏
- ・(財)仙台国際交流協会企画事業課長 佐藤剛、須藤伸子、丹野裕美子



佐々木和夫氏



『定禅寺ストリートジャズフェスティバル』は、「杜の都・仙台」の街角で毎年9月に開催し、市民ボランティアが中心となって企画・運営を行っている音楽祭。市民からのカンパや演奏者からの協力費等で運営しています。ステージは街の中、あらゆるジャンルの音楽が演奏されます。昨年は、769グループ、5,200人もの演奏者が仙台に集まって2日間、演奏を行いました。

第2回懇話会では、日本人主体の市民活動へ留学生がどのような関わり方ができるか、仙台を代表する市民活動である「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」を具体例に、元実行委員長の佐々木氏より話題提供いただきました。

活動の関わり方の具体例として

- **観客になる。**
- **バンドで出演する。**
- **実行委員になる。**
日本語のレベルはあまり問題にならないと思う。1年間準備活動をやる意欲のある方には、ぜひ実行委員になっていただきたい。
- **当日ボランティアになる。**

1日だけでも、2日でもよい。毎年150～200名の当日ボランティアが参加している。

- **各拠点となるような会場に、外国語の通訳ができる人にスタッフになってもらいたい。**
フェスティバルのときには非常に多くの外国人の観客を目にする。われわれスタッフの中に、外国語ができる人がいると、非常に心強い。
- **西公園で行っているワールドキッチンに参加する。**

ジャズフェスの場合は、上記のような関わり方ができると提案いただきました。

これを受け、まずは、観客として参加することが第一歩。そこで得た楽しさや経験から、次のステップと

してボランティアや実行委員として関わってみよう
と思うようになるのでは、という意見が出ました。

留學生が参加するには難しいことも>>>

バンドとして参加した経験がある留學生もいて、自らの経験から、留學生が市民活動に参加するには難しい点もあることを話してくれました。一つは時間の問題で、平日は勉強・研究、休日はアルバイトで時間がないということ。もう一つはお金の問題で、生活が苦しい留學生もいるので、参加費のあるイベントだと負担になるということでした。

情報発信の重要性>>>

留學生からは、イベントやボランティア募集などの情報を留學生に知らせることが大事だという意見が出ました。

留學生団体は、メーリングリスト等で多くの留學生に情報提供できるので、必要な情報を団体あてに届けられれば、それを翻訳の上、個々の留學生に市民活動の情報を届けることができるとのことでした。

学内の留學生にアンケートを取った大学の方からは、「ほとんどの留學生は、潜在的に市民活動に参加したいという欲求があることが分かった。しかし、市民活動に関する情報が、留學生にも大学側にも乏しく、参加者が少ない。」との話がありました。

これらのことから、市民活動に関わる情報は、留學生が所属する大学や団体へ積極的に提供してゆくことが、留學生の市民活動に関わる機会を広げる、大事なポイントになることが分かりました。

2回の懇話会を通して、留學生の市民活動には2つの役割があると感じました。ひとつは地域の活性化。言葉の問題などはあるかもしれませんが、社会の中に多様性を確保するという事は、「仙台」という街を面白く、魅力ある街にしていくのではないかと考えます。「地域の活性化」の意義は非常に大きいと思います。

もうひとつは留學生活の充実。単なるお客さんとして仙台にいるのではなく、学業以外に「何かを仙台でやった」という経験は、留學生にとっても良い思い出になり、次に仙台に来る人が増えることにもつながると感じました。

仙台地区中国学友会

仙台地区で学ぶ中国人留學生・学者による自治団体です。在仙中国人留學生・学者の生活面をサポートしたり、会員相互だけでなく地域社会との交流活動も行っています。

日中友好料理文化交流大会や仙台国際交流写真展などを主催しています。

在日インドネシア留學生協会宮城支部

ダンスや伝統的な楽器の演奏などのインドネシア文化の紹介を通じて、インドネシアと日本との友好関係を深めるために祭りや交流活動に参加しています。

2013年4月28日には、青年文化センターでインドネシア文化公演 FESTA 2013 を主催します。



チゴラガン協会

団体名のチゴラガン(chiguragan)と言うのは、「人々の集まり」という意味で、モンゴル文化の宣伝や国際交流に熱意のある、内モンゴル出身の留學生からなるグループです。毎年5月には、モンゴル相撲大会を主催しています。

また、3月3日に行われた青葉区中央市民センターの「ふれあい祭」では、内モンゴルの紹介を行い、馬頭琴の演奏や、民族衣装のファッションショーを披露しました。



他都市の事例

他の都市では、どのような事例があるのか聞いてみました。



福岡

情報提供：福岡県留学生サポートセンター

- **福岡県留学生会（FOSA）文化ショー**…留学生が自国の様々な民俗芸能を披露し、福岡の市民に各国の文化を紹介する一大イベント。
- **クリーン福岡キャンペーン**…1997年に留学生の発案により地域貢献と交流を目的として始まった地域清掃活動。この活動は、NPO法人や福岡県在住の留学生らが主体となり、実行委員会を組織。県内での清掃活動と共に、地域の人々と留学生との交流をはかり、豊かな地域づくりをめざして活動を行っている。
- **福岡市民の祭り「博多どんたく港まつり」**…留学生グループがパレードに参加。
- **その他**…各地域で市民団体がさまざまな活動をしており、それに留学生が参加している。また、協力依頼が来ると福岡県留学生会（FOSA）のメーリングリストを使って登録している留学生に周知している。

京都

情報提供：（公財）京都市国際交流協会

- **国際理解プログラムPICNICK**…留学生が小・中学校へ赴いて、自国の紹介を行っている。京都市国際交流協会が大学や教育委員会と連携している事業で、留学生が地元の人や子どもたちと交流し、地域社会と触れ合う機会となっている。
- **体験しよう！ボランティア活動で出会う京都**…京都市国際交流協会が主催する事業で、いろいろな分野の活動から在住外国人が自分の興味のあるものを選び、1日のボランティア体験を行う。ボランティア活動をしたいが、なかなかきっかけがないという留学生が多数申し込みをし、高齢者や障害者の福祉施設でボランティア体験を行った。
- **その他**…各国の留学生団体が体育祭や民族芸能を紹介するイベントなどを行っている。

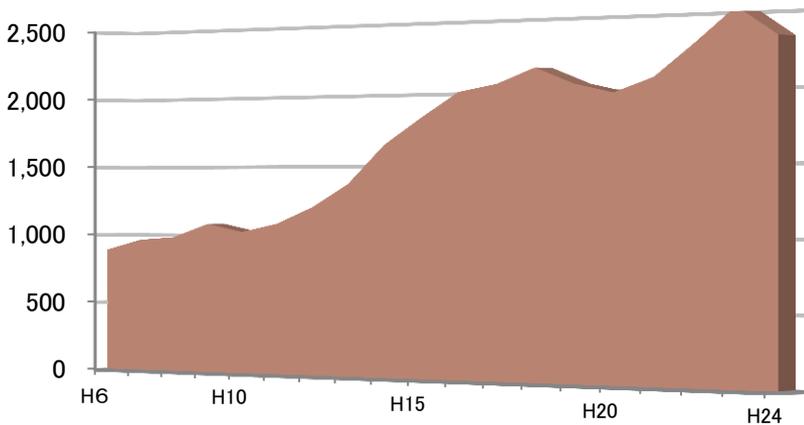


留学生に関するデータ

仙台市には、100 近い国と地域から来た、約 2,400 人（平成 24 年 5 月）の留学生が生活しています。

人口に占める外国人市民の割合は 1%弱で決して多くはありませんが、そのうちの約 1 / 4 が在留資格「留学」となっており、外国人市民に占める留学生の割合の高さが仙台市の特徴となっています。

仙台市内に住む留学生数 各年4月末日



在留資格が「留学」である人の数を掲載。なお、平成 22 年 7 月から、在留資格の「留学」と「就学」が一本化されたため、平成 22 年とそれ以降では、単純に比較することはできません

仙台市における外国人の概要 (平成 24 年 4 月末現在)

外国人登録者数： 9,153 人
→仙台市人口の 1%弱
在留資格「留学」 2,387 人
→外国人登録者の約 1 / 4

外国人登録者の国別割合：

①中 国 41.8%
②韓 国 24.8%
③米 国 4.2%

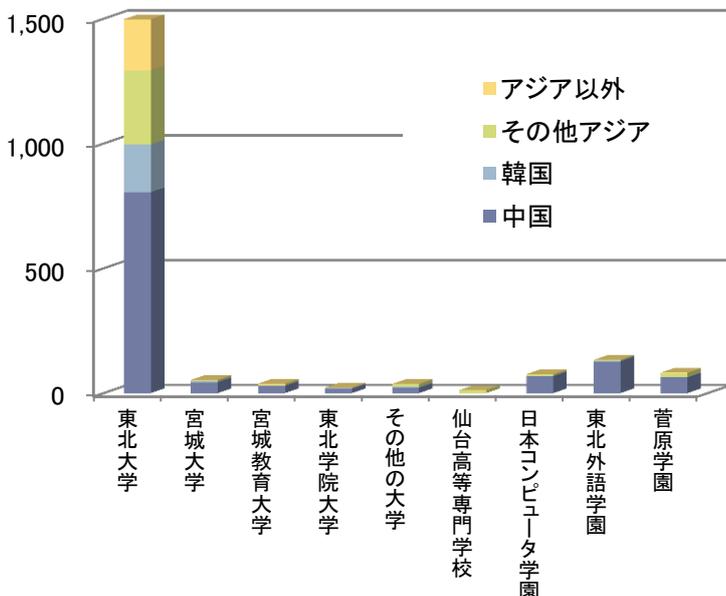
在留資格別割合：

①留 学 25.5%
②永住者 24.3%
③特別永住者 15.8%

仙台市内の大学等に通う留学生数

平成 23 年 5 月 1 日現在。宮城県留学生交流推進会議

* 仙台高等専門学校には、市外キャンパス分を含みます。



左の図は、学校別に見たもの（ただし、平成 23 年 5 月現在。宮城県留学生推進会議資料）ですが、東北大学に多くの留学生が集まっています。

国籍(地域)別では、中国から来た留学生が最も多く、留学生全体の約 6 割を占め、次いで韓国が約 1 割を占めるなど、アジアの各国から来た留学生が多くなっています。

アジア以外では、アメリカ合衆国、イラン、トルコ、フランス、スウェーデン、ブラジルからの留学生が 10 人を超え、留学生の国籍(地域)は、総数で 87 に及んでいます。

市民活動をしてみたい留学生の皆さんへ

市民活動お役立ち情報

次の URL から下記のお役立ち情報が入手できます。
上手に利用して活動を盛り上げましょう！

⇒ <http://www.sapo-sen.jp/oyakudachi>
(情報提供：仙台市市民活動サポートセンター)

- 1 仙台市市民活動サポートセンター サポセンは、市民活動団体の心強い味方です！活動のヒントとなるさまざまな情報を提供、活動を支援してくれます。
- 2 チラシ・ポスターの置けるスペース たくさんの人に広報するために！
- 3 助成金ってなに？ 活動資金調達のために！
- 4 名義後援ってどうやって受けるの？ 名義後援のメリットを理解しよう！
- 5 メディア活用大作戦 メディアを利用して効果的な広報をしよう！
- 6 仙台市内ホールマップ イベントの会場探しに！

SIRAのサポート情報

SIRAでも、市民活動がんばる留学生を応援しています！
つぎのようなサポートがありますので、ぜひ活用してください。

- 1 SIRA補助金 市民団体のみなさんの自主的な国際交流・多文化共生・国際協力を推進する活動に事業費の一部を助成しています。
- 2 名義後援 国際交流・多文化共生・国際協力などを目的としたイベントに名義後援をします。チラシの配布などの広報のお手伝いもできます。
- 3 仙台国際センターだよりでの広報 補助金、名義後援を利用する事業や国際センターで開催されるイベント情報を掲載できます。
- 4 SIRAホームページ・メルマガでの広報 国際交流・多文化共生・国際協力に関するイベント情報を掲載できます。
- 5 仙台国際センター研修室・ワークショップの利用 国際交流・多文化共生・国際協力に関する活動をしている団体に、活動の場として利用できます。利用団体登録が必要です。

